# 実習事前指導におけるテレビ会議システムの利用

杉　山　喜美恵（教育方法）

## はじめに

筆者は、実習指導の内容や方法というテーマで調査研究を行っているが、その中のひとつから、実習未経験の学生は実習に対して非常に大きな不安を感じていることがわかった[注1)]。また、実習園が実習生に望んでいることを把握する目的で行った調査より、実習事前指導で指導すべきだと考えている事項に、実習園と養成校間で差異があることもわかった[注2)]。これらの原因として、実習事前指導の多くが養成校で行われており、実習園側が指導に参加する機会がほとんどないということがあげられるのではないかと考えた。

養成校での実習指導、特に事前指導に実習園の指導保育者が参加していただくことができれば、実習園側は養成校の実習指導の現状や学生の状況の把握ができ、学生は実習園の様子を知ることによって不安の軽減に役立ち、養成校にとっても実習園が実習生に求めているものを理解することができるなど、メリットはたくさんある。しかし、実習の巡回指導で園を訪れる都度、実習園の保育者がいかに忙しいかを痛感させられる。そのような現状ではなかなか実習指導に実習園側の保育者が参加することは難しいであろうと思われる。

そこで、一つの試みとして、情報メディアを利用して、実習指導に実習園側の保育者に参加していただく機会を作り、これらの現状を少しでも改善することができないかと考えた[注3)]。

その場合、情報メディアの選択が重要な問題となるが、選定に当たっては、まず、実習指導の目的、内容を明らかにし、それらを踏まえた上で適切なメディアを選択したいと思う。

## Ⅰ．実習指導と情報メディア

### 1．保育士養成課程および幼稚園教諭養成課程における実習指導

幼稚園教諭および保育士養成カリキュラム（以下、両者の養成課程を示すときは、保育者養成課程と記述する）の中で、実習および実習の事前事後指導がどのような主旨のもとにどう位置付けられているか、保育士養成カリキュラムおよび教員免許法改正に伴う答申などを中心に概観したい。

(1)　保育士養成課程における実習指導

保育士養成カリキュラム改正にあたって「教科目の教授内容」が提示されているが、その中で、「保育実習指導」のねらいは、「保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる」（厚生労働省　2001）[1)]とある。また、「保育実習指導」の内容としては、

① 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習施設に置いて見学・オリエンテーション等を行う。

② 実習中に巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンを行う。

③ 実習終了後に、事後指導として、実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。

の３点があげられている（厚生労働省　2001）[2)]。

また、②に「実習施設の実習指導担当者との連携」とあるが、これは「保育実習実施基準」において、「指定保育士の養成施設の所長は、教員のうちから実習指導者を定め、実習に関する全般的な事項を担当させることとし、また、実習施設においては、その長及び保育士の資格を有する職員のうちから実習指導者を定めるものとし、これらの実習指導者は相互に緊密な連絡

をとり、保育実習の効果を十分発揮するように努めるものとする」(2001)[3]ことを踏襲したものであると考えられる。つまり、より高い専門性と実践力、応用力を備えた保育士を養成するために、養成施設は、実習指導全般に責任を持つ教員を定め、実習施設の実習指導者と相互の緊密な情報交換をすることが求められている。

(2)　幼稚園教諭養成課程における実習指導

次に、幼稚園教諭養成課程における実習事前指導については、教育実習の事前及び事後の指導に関して、教育職員養成審議会の第一次答申の中で、「事前指導をより効果的なものとするため、教育実習の意義・心得、指導案の作成、教材研究や教材の思考的作成などはもとより、ビデオや授業実践記録を活用しての授業研究、附属学校や実習協力校等における実際の授業等の観察やそれらへの参加、模擬授業の実施などについても、大学は適切に考慮すべきである」(教育課程審議会　1997)[4]と述べられており、多様な内容および方法の事前指導を行うよう求めている。さらに、「大学の教員のみならず現職教員を含め様々な人材の活用や、学校における実際の授業等の観察、それに代わるビデオ又はインターネット、衛星通信等マルチメディアの積極的活用を図ることなども工夫すべきである」(教育課程審議会　1997)[5]という記述が見られ、実習指導のみを対象としているわけではないが、現職の教員に対してメディアの積極的な利用を奨励している。

また、大学と実習協力校の連携協力体制についても触れられており、大学側と都道府県・政令指定都市教育委員会側との評価の相違をあげ、「大学を中心に、両者の連携関係や指導体制の強化に一層努力する必要がある」(教育課程審議会　1997)[6]と指摘している。

以上のことより、保育士および幼稚園教諭養成課程における実習指導においては、実習指導のねらい、内容、方法など共通点が多く、特に「実習指導を効果的にするためのメディア活用など教育方法の工夫」、「実習園と養成校との緊密な情報交換を伴った協力体制の重視」という２つの項目は、両者ともに重要視されていることがわかる。

## ２．実習指導におけるメディア利用の可能性

次に、実習指導におけるメディア利用の有効性について考えてみたい。

従来、実習指導、特に事前指導は養成校の場で行われ、実習園側の指導者は事前オリエンテーションという形でかかわっているのが現状である。実習園側と養成校側、あるいは、実習園側と学生の認識のギャップを埋めるためには、三者が同時に「場」を共有することが解決策の一つとしてあげられるのではないか。しかし、実習園が遠方であったり、たとえ近くであっても、忙しい保育者の現状を考えるとなかなかそういった場を持つことは難しいのが実情である。これらのことを考慮した結果、数多く存在する情報メディアの中から、同期、双方向性という性格を有するテレビ会議システムに注目した。

(1)　教育におけるテレビ会議システムの利用

テレビ会議システムの利用を大きく捉えると、閉回路テレビにその端を発する。現在のテレビ会議システムとは異なり、システム整備が困難であったため、有効性が示唆されていたにもかかわらず普及することはなかった。

1985年ごろから、いわゆる「パソコン」が普及し始め、1990年代に入ると、コンピュータを含めたマルチメディア関連のハードウエアの進歩、インターネットの普及などにより、教育現場でのインターネット利用に関する実践報告も多くみられるようになった。さらに、新たなテレビ会議システムの開発により、文字情報だけでなく、映像を伴った遠隔教育が可能になった。閉回路テレビシステムと比較すると、テレビ会議システムは、システム整備、回線使用料などにおいても低コストであるため、比較的導入しやすいというメリットがある。

テレビ会議システムを使用した教育実践の代表的なものには、1994年から通商産業省と文部省により開始された「100校プロジェクト[注4)]」や1996年よりNTTが中心となっている「こねっとプラン[注5)]」などがあげられる。

小、中学校では、授業の中で遠隔地の学校間の交流を持つという実践が比較的多く報告されており、最近では、外国の学校との交流会も報告されている。また、授業に限らず、教育相談

や進路指導などへの適用についても報告がある[注6)]。

高等教育においては、閉回路テレビの時代から実践の歴史があり、さらには、1996年より通信衛星を使用した授業なども始まっている。1998年に双方向の通信ネットワークを用いた遠隔教育を大学の授業として認めるようになり、現職教員の研修や遠隔大学院などの報告もなされている[注7)]。

(2) テレビ会議システムを利用した実習指導

教育におけるテレビ会議システムの有用性については、さまざまな実践報告より明らかであるが、教育実習指導についてもテレビ会議システムを利用した報告がなされている。ここでは、本研究の目的である実習事前指導に関連があると思われる3つの先行研究をとりあげた。

一つ目は、岐阜大学における実践報告だが、岐阜大学においては、さまざまな遠隔教育の取り組みをおこなってきている。授業観察や実習交流会に対する取り組みもなされている[注8)]。その報告の中で、実習観察におけるテレビ会議システムの利用は、多数の学生の参加によって相手側の学校の教育活動に支障をきたすことや、学生の移動に時間や費用を要するといった問題点を解決するためにも有効であり、また、「テレビ会議システム」という将来教育現場で有望なメディアに実際に触れ、活用法を学ぶことができるという付加的なメリットもあると述べられている。

また、テレビ会議を用いた教育実習研究会に関する報告においては、観察視点における制限、音声伝達における雑音、子どもの表情などが伝わりにくいなどの課題があるとしながらも、実習校と養成校とのコミュニケーション作りや授業研究の手段として将来大いに期待されると述べている。

二つ目は、横山らの「インターネットを利用した教育実習遠隔指導に関する基礎研究」である[注9)]。横山らは、1996年より附属学校と大学をテレビ会議システムで接続し、研究授業の視聴や研究授業の反省を行う研究会を行ってきた。

実習前のケーススタディの困難さや地理的条件により大学教官の指導が不十分などの教育実習に対する問題点を改善する方策としてネットワークを利用したテレビ会議システムの可能性をあげている。

この報告では、低帯域ネットワークでテレビ会議を有効に活用するための具体的な方法を提示している。つまり、「音声の伝達を優先させる」こと、「システム構成はシンプルで簡便なものとする」こと、「必要とされる情報を的確にとらえるカメラワーク」が求められることなどをあげ、「現状では教育実習の有効な支援手段とはなりえるが、訪問授業参観の代参とまでは至っていない」としながらも、事前・事後指導、教科教育に関する講義演習などさまざまな場面で「実地に赴かなくとも手軽に具体的な事例を取り上げることができるなど多様な活用方法が期待される」と結んでいる。さまざまな問題を残しながらも、テレビ会議システムを利用した実習指導は、距離的、時間的なバリアを克服することができるという大きなメリットをもっており、十分実習指導に利用していくことができるといえる。

横山らの報告は、おもに実習中におけるテレビ会議システムの利用について述べたものであるが、教育実習の事前、事後指導にwww、電子メール、掲示板などのインターネットおよびテレビ会議システムを利用して、教育実習を充実させていくという試みを3つ目としてあげることができる[注10)]。

これによると、事前指導においては、「学生が過去・現在の問題意識を時間と場所の制約を超えて、学生仲間と対話できる環境」として、電子掲示板やチャットルームなどをウェブ上に準備し、また、教育実習のための教材や指導案、過去の実習記録簿に関わるネットワーク・データベースを準備し、学生が自由に使用できる環境をウェブ上に構築した。

また、事後指導として、テレビ会議システムとインターネット(wwwおよび電子掲示板)を用いて「仮想教育実習システム」環境を構築した。これは、教育実習後に協力校と仮想教育実習を希望する学生間でテレビ会議システムを使用した4回の共同学習(自己紹介と3回の交流学習)が計画されている。

小柳らの報告は、教育実習を事前、実習中、事後を通じてひとつの実習システムととらえていること、テレビ会議システムだけでなくインターネットも合わせて使用することで統合ネットワーク環境としてとらえることなど多くの有効な示唆を与えている。

以上、3つの先行研究について取り上げたが、これらを踏襲し、幼児教育課程での実習指導にメディアをどのように利用していくか、その方策について考えてみたいと思う。

(3)　保育者養成課程の実習指導における
テレビ会議システムの利用

先行研究を調べてみると、そのほとんどが大学の教員養成学部におけるものであり、保育者養成関連の報告例はほとんど見受けられない。しかし、実習という視点で捉えれば、保育者養成課程における実習もシステム的には同じであり、したがって、テレビ会議システムを利用することの有効性を示唆できるものと考えられる。

実習は、事前、実習中、事後を通して、ひとつのシステムとして捉えるという考え方もあるが、それぞれの目標、内容は異なっており、メディア利用の意義や方法も異なってくると考えた。今回はまず事前指導での利用をとりあげることにする。

事前指導にテレビ会議システムを利用していく方法については、実習園側の事前指導への参加、学生の実習に対する不安の軽減という当初の目的から考えて、実習園側保育者との交流会が適当であろうと判断した。

ISDN回線がひかれているという設備環境を考え、附属幼稚園との交流会を実践してみたい。この試みの有効性が明示されれば、次の段階として、幼保を問わず設備環境が整っている実習園との交流会や実習反省会への参加とつなげていくことができると考えた。

## Ⅱ．研究の方法・内容・結果

### 1．交流会の概要

(1)　実施時期　　2002年1月

(2)　実施場所

東海女子短期大学情報館　6F

遠隔教育ホール

東海女子短期大学附属東海第一幼稚園

パソコン室

(3)　対象学生

東海女子短期大学児童教育学科幼児教育専攻　2001年度入学生　50名

(4)　テレビ会議システムを含む機器環境

今回使用したテレビ会議システムを含む機器環境は図1、図2に示した。

(5)　講義の流れ　　講義「実習概説」　(90分)

10分　接続状況の確認および準備

20分　講義(東海女子短期大学附属東海第一幼稚園　副園長　茶座伊都子先生)

25分　質疑応答

35分　調査用紙および感想の記入

(6)　実施内容

実習指導の講義の中で、東海女子短期大学附属東海第一幼稚園のパソコン室とテレビ会議システムで接続し、茶座伊都子先生との交流会を持った。

前回の講義で次週、幼稚園の先生のお話を聞く機会を持つ旨を学生に伝え、質問事項を記入させた。その結果をまとめ、事前に先生と、話していただく内容および質問事項を決めた。

実習に対する不安意識および交流会を持つことによって不安が緩和されたか、テレビ会議システムを使用した交流会についての3枚の質問用紙を準備し、交流会終了後、記入させた。

交流会に参加した感想を先生に聞いた。

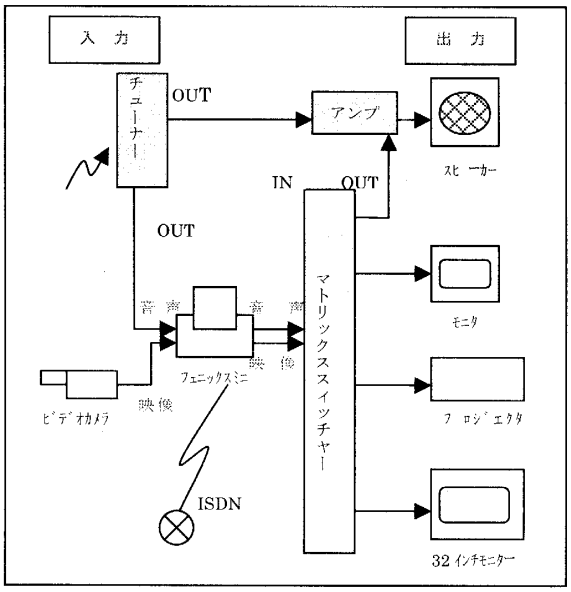


図1　短大における機器環境

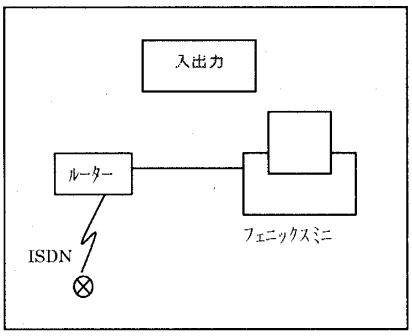


**図２　附属幼稚園における機器環境**

## ２．結果

(1)　交流会についての感想

今回の交流会について①先生のお話が聞けたのはよかった、②こういう機会がもっとあるとよい、③声が聞き取りにくかった、④画像が見にくかった、⑤もっと質問の時間がほしい、⑥やはり目の前で話が聞きたい、⑦時間が短かかったの７項目を設定し、「そう思う」、「わりと思う」、「あまり思わない」、「思わない」、「どちらともいえない」の５件法で評定を求めた。

質問内容の選定にあたっては、企画、視聴覚状況、時間、リアルタイムではあるが、相手が目の前にいないということについて質問した。

その結果を「そう思う」が多い順にソートしたものが、図３である。これによると、「先生のお話が聞けたのはよかった」が98.0%で一番多く、次いで「こういう機会がもっとあるとよい」が74.0%で続いており、このような機会をもつことに対しては多くの学生が好意的に受け止めていることがわかった。

「やはり目の前で話が聞きたい」が28.0%で続いており、約３割の学生が同じ場に相手が存在することを望んでいた。

音声と画像については、「そう思う」と回答した者が、ともに6.0%と2.0%と低く、特に画像については、映す対象の動きが少なかったせいか、否定的な回答は比較的低い割合を示した。

時間的なことについては、両者ともに「そう思う」と答えた者が4.0%と少なく、時間的には適当であったと思われる。

次に、より深く捉えるために、①テレビ会議システムを用いた交流会についてどう感じたか、②先生のお話をビデオで録画してあるのを見るのとは違うと思うか、③内容的にはどうだったか、④テレビ会議システムを使って別のことを企画するとしたら、どんなことがよいか、⑤今度の時にもっとこうして欲しいと思うことは何かの５点について記述を求めた。

まず、①についてだが、「テレビ会議システム」というものを「非常に便利なメディアである」と回答した者が50名中36名いた。具体的な内容としては、「質問ができる」という双方向性をあげた者が一番多かった。その他には、リアルタイムであること、忙しい時間の中で話ができること、緊張感があり、静かな授業だったことなど、メディアに対する評価はかなり高い。音声が聞きにくいという者が２名、その他に音声情報だけでなく画像があることに対する評価、また、相手と面とむかってではない気楽さが良いとした者も３名いた。

②については「質問ができるので録画したビデオを視聴するよりはよい」という記述が33名で一番多かった。このような交流会においては、テレビ会議システムの双方向性が非常に有効であることがわかった。録画したものであると決まった質問しかできないが、その場で質問したいことが聞けるという臨機応変さがテレビ会議システムにはあり、そのことが高く評価されている。また、相手が存在することによって、口調や表情が変化するため、ビデオよりも親近感がわくと答えた者もいた。

③ついては、「参考になった」と答えた者が27名で一番多かった。実習を控えているこの時期にこのような機会を持つことができ、気分が楽になったという回答もあり、この時期に交流会を持つことは有効であると思われる。また、「研究保育についてもいろいろと質問がしたい」、「実習後の方がもっと質問したいことがはっきりする」といった回答も見られ、この時期だけでなく、他の時期での開催も考えていく必要がある。

ほかの企画については、幼稚園での活動（保育）の様子、園児との対話、幼稚園以外の保育園や施設の先生の話、複数の先生との交流会（グループ会議）、実習に行っている人の話、先輩（卒業生）の話、先生方の研究会など非常に多くあげられた。また、海外の幼稚園や保育園の話を

聞きたいと回答したものもおり、さまざまな要望が出された。

次回への要望（⑤）については、音声を聞き取りやすくというものが８名で一番多く、次回にはもっと音声を聞き取りやすくするために何らかの手段を講じる必要性を感じた。また、実習のあとにこのような交流会を持って欲しいという要望もあった。

⑵　交流会による不安緩和

このような交流会が学生の実習に対する不安を軽減するのに役立ったかどうかを調べるために、受講学生に実習に対する不安意識および不安軽減、２枚のアンケートを記述させた。

前回の調査[注11]では、12の不安項目を設定し、それらの因子分析の結果から、「社会的コミュニケーション」、「対園児コミュニケーション」、「体調維持」の３因子が抽出されたが、それを受けて、今回はその３因子の視点に加え、経験的に不安が高いと感じる保育技能、実習特有の作業についての項目を設定し、25項目とした（表１）。

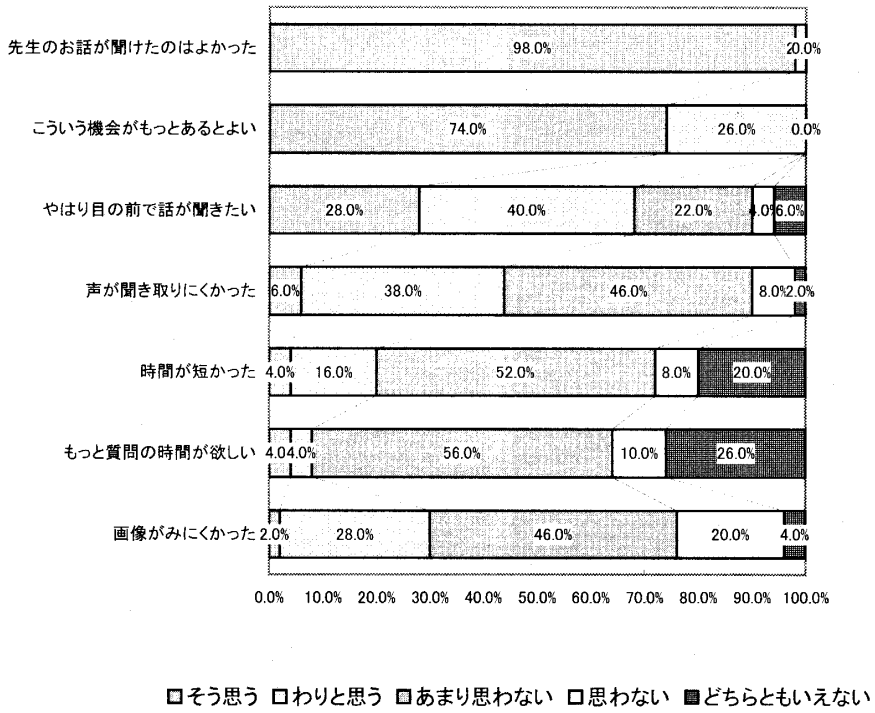


**図３　学生による交流会についての評価**

**表１　実習についての調査項目**

| 対園児コミュニケーション | 社会的コミュニケーション |
|---|---|
| ①　園児に自分から話しかけること<br>②　園児の遊びに自分から入っていくこと<br>③　園児の名前を早く覚えること<br>④　すべての園児に平等に接すること<br>⑤　たくさんの園児の前で話すこと<br>⑥　園児間のトラブルを解決すること<br>⑦　いつも笑顔で園児に接していられる<br>⑧　園児と仲良くできること | ①　先生に自分から質問する<br>②　先生方に進んで挨拶をする<br>③　敬語を使って話をする<br>④　他の実習生とうまくコミュニケーションをとる<br>⑤　保護者の人に進んで挨拶をする<br>⑥　保護者の人から声をかけられたとき、うまく対応する<br>⑦　先生から質問を受けた時、てきぱき答えられる<br>⑧　先生とうまくコミュニケーションをとる |
| **保育技能** | **体調維持** |
| ①　園児の前で絵本や紙芝居をすること<br>②　園児の前で手遊びをすること<br>③　園児の前でピアノを弾くこと<br>④　園児に分かるような言葉で話をすること | ①　最後まで体調よく実習できる<br>②　朝、遅刻しないで出勤できる |
| | **実習作業** |
| | ①　毎日、実習記録簿をつける<br>②　指導案を書くこと<br>③　研究保育を行うこと |

これらの項目に関する不安意識を調べた結果を不安が高い順に示したものが図４である。

その結果、一番不安が高かったのは、「毎日、実習記録簿をつける(86.0%)」であった。次に、「保護者の人から声をかけられたとき、うまく応対する(80.0%)」、「他の実習生とうまくコミュニケーションをとる(78.0%)」、「保護者の人に進んで挨拶をする(68.0%)」と続いている。「毎日、実習記録簿をつける」を除いては社会的コミュニケーションの項目で不安が高くなっている。

次に、それらの項目に対する不安が今回の交流会によって軽減されたかどうかを尋ねた結果を、「軽減された」と答えた者が多い順に示したものが図５である。

その結果、「先生に進んで挨拶をする(20.4%)」が一番多く、次いで「園児と仲良くできる(18.4%)」、「いつも笑顔で園児に接していられる(16.3%)」と続いている。比較的、園児に対する関わり方と先生に対する項目が上位にあげられ、「実習記録簿をつける(4.1%)」、「最後まで体調よく実習できる(4.1%)」、「園児の前でピアノを弾く(4.1%)」、「園児の前で絵本や紙芝居をすること(4.1%)」など技術および技能に関する項目については低くなっている。

不安に感じている者が交流会によって軽減されたかどうかを項目別に調べた。各項目について、「不安に思う」「わりと思う」と答えた者の合計から、「不安が軽くなった」「わりと軽くなった」と答えた者の合計を引き、人数の多い順に示したものが、表２である。

その結果、「園児間のトラブルを解決すること」が27人で一番多く、次いで、「園児の遊びに自分から入っていくこと(23人)」「園児に自分から話しかけること(19人)」と続いている。このことより、園児との関わり方(対園児ミュニケーション)についての項目が上位にきていることがわかる。園児との関わり方については、今回、先生に質問したい項目で学生の要望が一番多く、そのことを中心にお話をしていただいた。したがって、話していただいた内容に関連のある項目については、不安の軽減につながったといえる。

**表２不安が軽減された項目**

| 項　　目 | 人数 |
|---|---|
| 園児間のトラブルを解決すること | 27 |
| 園児の遊びに自分から入っていくこと | 23 |
| 園児に自分から話しかけること | 19 |
| 園児と仲良くできること | 17 |
| 園児にわかるようなことばで話すこと | 11 |
| 園児の名前を早く覚えること | 10 |
| 園児の前で手遊びすること | 10 |
| いつも笑顔で園児に接していられる | 10 |
| 先生に自分から質問する | 10 |
| たくさんの園児の前で話すこと | 9 |
| 先生と上手くコミュニケーションをとる | 9 |
| すべての園児に平等に接すること | 8 |
| 保護者に人と上手く対応する | 8 |
| 研究保育を行うこと | 8 |
| 園児の前で絵本や紙芝居をすること | 7 |
| 先生方に進んで挨拶をする | 7 |
| 保護者の人に進んで挨拶をする | 7 |
| 敬語を使って話をする | 6 |
| 他の実習生とうまくコミュニケーションをとる | 6 |
| 先生からの質問にてきぱき答える | 6 |
| 指導案を書くこと | 6 |
| 園児の前でピアノを弾くこと | 4 |
| 最後まで体調良く実習できる | 4 |
| 朝、遅刻しないで出勤できる | 4 |
| 毎日、実習記録簿をつける | 4 |

参加いただいた実習園の保育者に意見を求めたところ、質疑応答の時間がもう少しほしかったとの意見が出された。テレビ会議システムの双方向性という特性を活かすためにもより活発な意見交換ができるよう、計画に配慮すべきであった。しかし、学生の考えていることの一端がわかり、また、養成校で行われている事前指導に参加することができたのは、実習に対する指導という点でよかったのではないかとのことであった。何よりも多くの学生と話すことができ、楽しかったとの感想をいただいた。

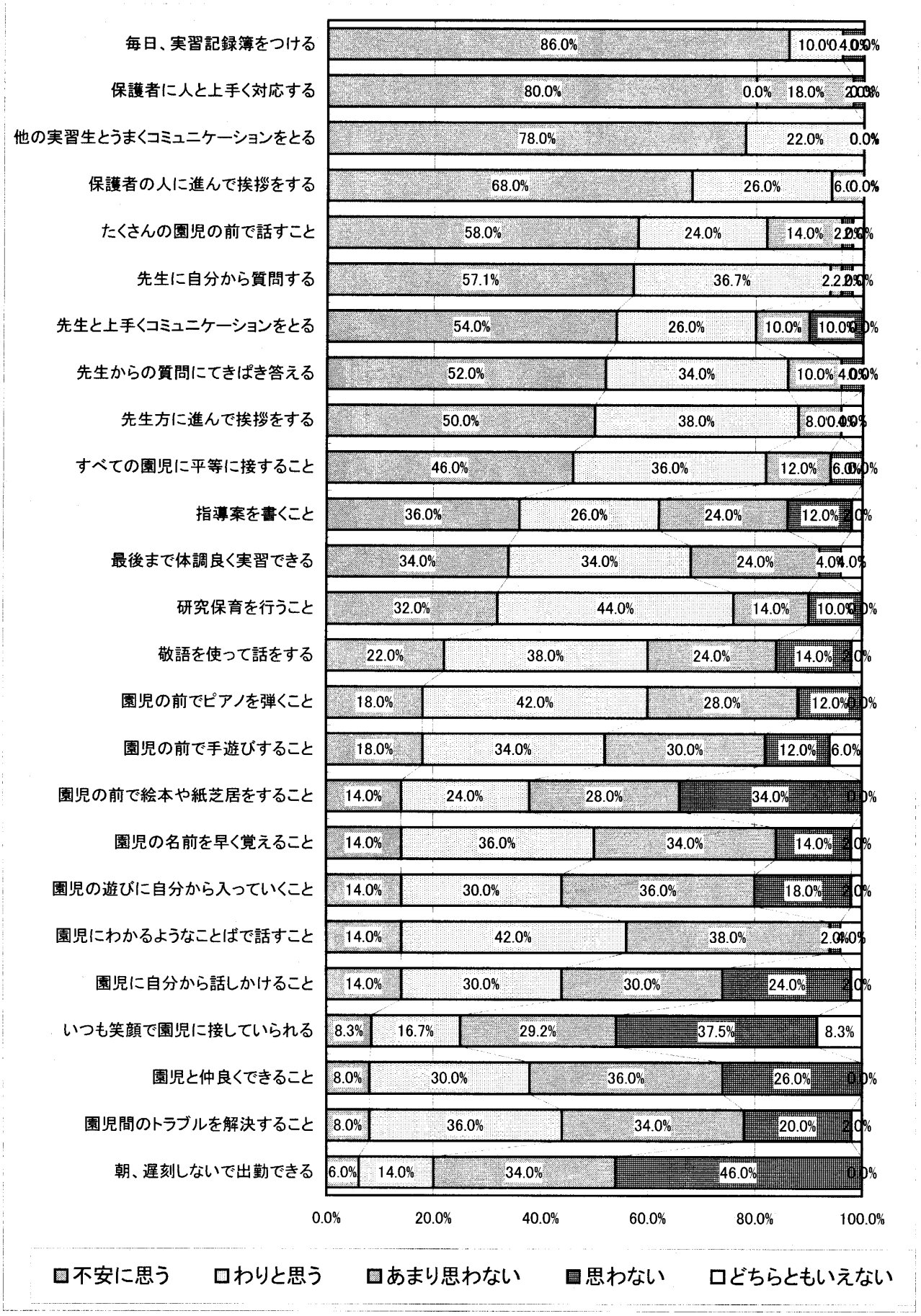


図４　実習に対する不安意識

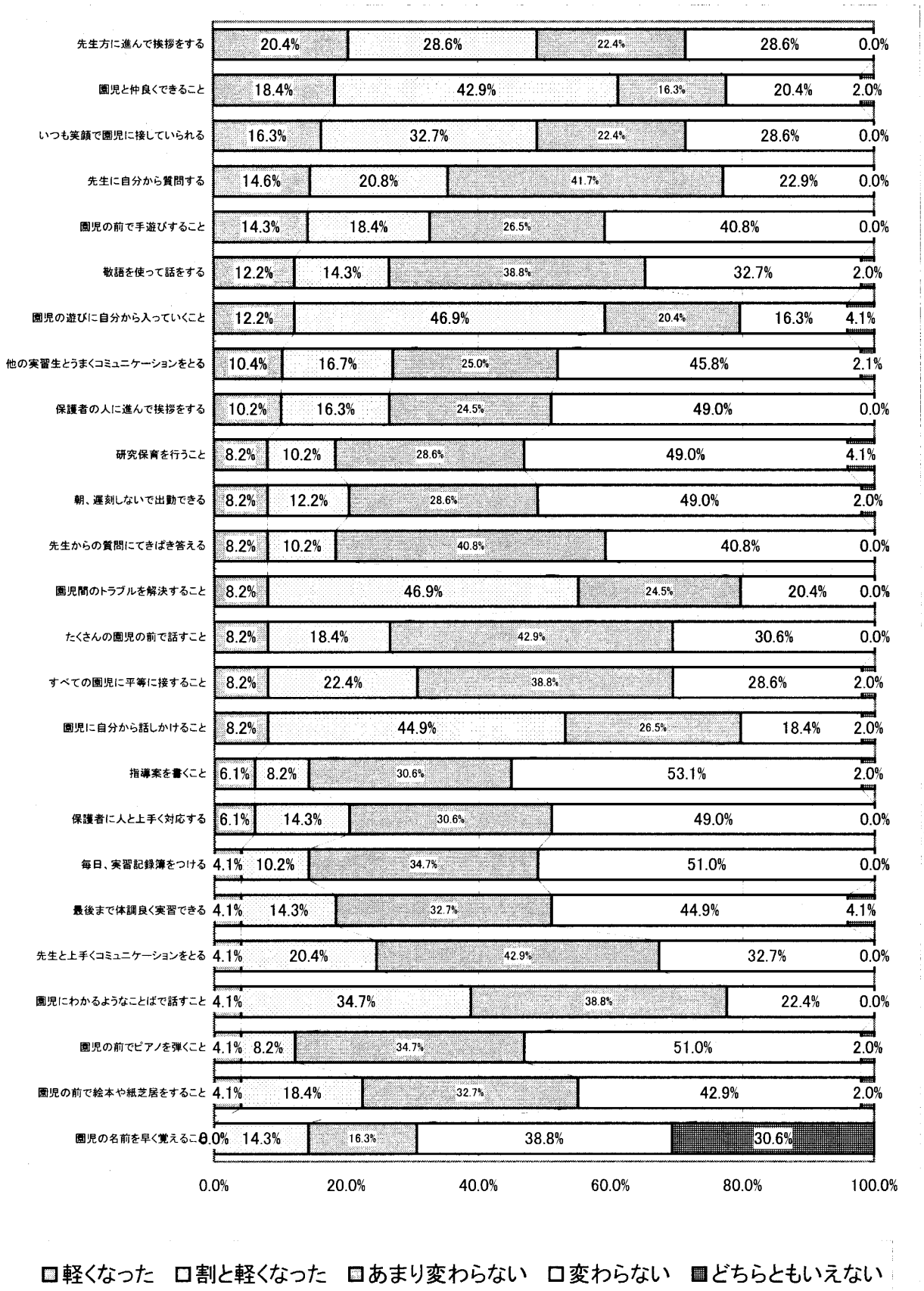


図５　交流会による不安軽減

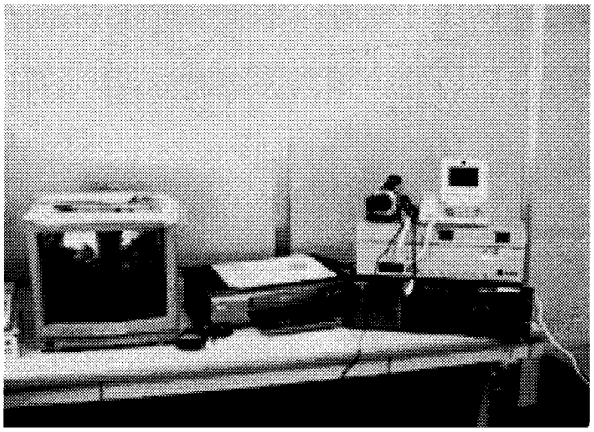

写真１　機器環境

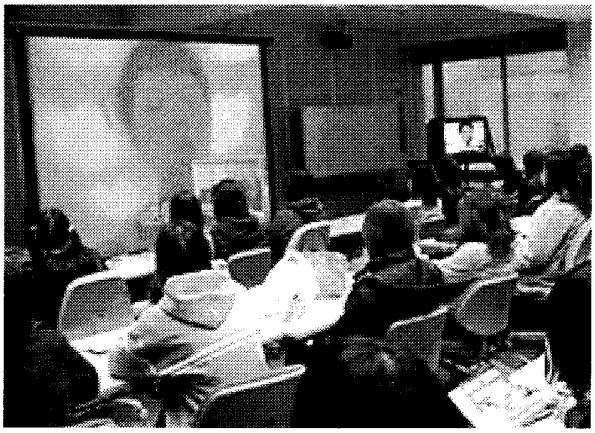

写真２　交流会の様子

## Ⅲ．考　　察

### １．まとめ

テレビ会議システムには、双方向性、リアルタイムであるという特性を持っているが、その特性を生かして、実習事前指導の一環として、保育者との交流会を企画し、実践した。

その結果以下のことが明らかになった。

①学生は、テレビ会議システムに関して、「便利なメディア」であると受け止め、テレビ会議システムを講義で利用することを非常に好意的にとらえている。特に、現場に出かけていかなくても園の様子を知ることができるため、移動時間のロスがないこと、質問ができること、リアルタイムであるため、ビデオを視聴するより緊張感があるなどという点を高く評価している。

別の機会として、園児との交流や、保育園・施設の先生との交流会、先輩の話を聞く会などの要望があった。

しかし、対面授業と比較した場合、７割弱の者が目の前で話を聞きたいと感じており、学生にとっては、対面授業ができない場合の代替という位置づけでとらえられている。

②事前指導におけるテレビ会議システムを利用した交流会は、学生の実習に対する不安の軽減に貢献することがわかった。

③事前指導におけるテレビ会議システムの利用は、実習園側の保育者にとって、養成校、学生の実情を知るよい機会になり、回数を多くすることができれば、認識のずれを是正することに貢献する可能性が示唆された。

### ２．今後の課題

今後の課題としては、以下のことがあげられる。

①テレビ会議システムを実習指導の中に継続的に位置付けていくためにはテレビ会議システムを操作できる人材の育成が急務であり、多くの人材を育成するためのマニュアル作成が必要とされる。

②交流会以外の利用、例えば反省会などへの参加などについても検討したい。また、事前指導だけでなく、実習中でも巡回指導以外にお互いが情報交換できるような設備環境の構築、また、コストに関してもより多くの調査研究が必要になってくるであろう。

③音声の途切れや、映像の見にくさは、授業の効果を著しく損なうため、音声や映像に関する問題点を改善すべく、機器環境を見直す必要がある。

④交流会を企画する場合には、内容が重要な鍵となるので、取り上げるテーマをよく吟味し、タイムスケジュールなど、明確にしておく必要がある。

⑤他の情報手段、たとえばＥメールなどを実習機関との情報交換手段として使用することについて検討すべきである。また、より簡易で安価に設備環境が整えられるよう、新たなメディアに対しての情報を取り入れていく必要がある。

## おわりに

実習は、実習園と養成校間の「距離」の壁を持つ特異な科目である。しかしまた、よりよい実習のためには、その壁を越えて実習園と養成校の連携は必要かつ重要なファクターである。非常に多忙な実習園の保育者の方々との連携のために情報手段によって、その物理的障害を少しでも緩和できればと考えている。

本論文執筆にあたり、ご指導いただきました岐阜大学の加藤直樹教授、東海女子短期大学附属東海第一幼稚園福園長の茶座伊都子先生ににこの場をかりて感謝申しあげます。

［注］

注１）杉山喜美恵，「教育実習事前指導のあり方について－２. 教育実習に対する学生の不安要因」，東海女子短期大学紀要，第 28 号，pp167 - 178，2002.

注２）東海女子短期大学児童教育学科幼児教育専攻共同研究，「保育実習に必要な養成カリキュラムの検討－保育士（岐阜県・愛知県）の意識調査に基づいて－」，東海女子短期大学紀要，第 27 号，pp.97 - 110，2001.

注３）本論文は、岐阜大学大学院教育学研究科に提出した修士論文の一部を加筆・修正したものである。

注４）「100 校プロジェクト」とは、通商産業省と文部省（現文部科学省）が全国の小・中・高・盲・聾・養護学校にインターネットを普及させる目的で 1994 年から取り組んでいるプロジェクト。その後、「新 100 校プロジェクト」に引き継がれ、現在では、その成果を踏まえてさまざまな実験プロジェクトに取り組んでいる。（日本情報処理開発協会編『情報化白書 2001』）

注５）民間による教育におけるインターネットの普及のためのプロジェクト。NTT が中心となり、1996 年より、文部省（現文部科学省）の協力の下に推進し、約３億円の資金を投じた。

注６）進路指導への適用については、中馬悟朗、豊吉博義他，「テレビ会議を利用した進路指導に関する研究」，『岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センターデータレポート』№290，2000 年がある。

注７）大学院への適用については、中央大学大学院、慶應ビジネススクールなどの取り組みがある。また、テレビ会議システムのみではなく、通信衛星等の方法など多様な IT 技術を利用した遠隔教育も進められている。

後藤忠彦他，「教師教育における通信ネットワークを用いた遠隔授業の共同研究」，『岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センターデータレポート』№289，1999 年参照のこと。

また、その他に

①海外の大学と提携したプロジェクト
・東京都立科学技術大学とスタンフォード大学の遠隔共同クラス
・京都大学と UCLA 実時間遠隔講義
・青山学院大学とカーネギーメロン大学との国際合同授業

②インターネットのチャットシステムを利用した外国語の合同遠隔授業実験
・九州大学と北海道大学

③地域が主体となって大学間の遠隔教育を進めている取り組みもある。
・岐阜県の「国際ネットワーク大学コンソーシアム」
（日本情報処理開発協会編『情報化白書 2001』）(3)保育士養成課程等検討委員会，“今後の保育士養成課程等の見直しについて（報告）”，『会報保育士養成』，全国保育士養成協議会 P82，2001 年

注８）授業観察については、加藤直樹他，「テレビ会議システムを用いた遠隔授業観察」，2001 年、また、教育実習研究会については加藤直樹他，「テレビ会議を用いた教育実習研究会の検討」，2001 年がある。

注９）横山節雄他，「インターネットを利用した教育実習遠隔指導に関する研究」，『平成 10 ～ 11 年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書』，2001 年

注 10)小柳和喜雄,「ネットワークを組み込んだ教育実習事前・事後指導のシステム開発およびその運用評価研究」,『平成10・11年度科学研究費補助金(奨励研究A)研究成果報告書』, 2000年

注 11)前掲書　注1)

**[引用文献]**

1) 2) 保育士養成課程等検討委員会, 今後の保育士養成課程等の見直しについて(報告), 会報保育士養成, 全国保育士養成協議会, P82, 2001.

3)指定保育士養成施設における保育実習の実施基準について, 厚生労働省, 2001.

4) 5) 6) 新たな時代に向けた教員養成の改善方策について(教育職員養成審議会・第一次答申), 教育課程審議会, 1997.

－児童教育学科　幼児教育専攻－